

北米地域との青少年交流(KAKEHASHI Project - the Bridge for Tomorrow-)

カナダ国訪日団第5陣(シアコム高校グループ)

訪問日程 平成25年11月22日(金)～12月1日(日)

1 プログラム概要

本プログラム第5陣では、カナダ国ブリティッシュ・コロンビア州デルタ市のシアコム高校(Seaquam Secondary School)の一行25人が、11月22日(金)(日本到着)～12月1日(日)(日本出発)の旅程で来日した。

日程の関係から、オリエンテーションの後、即、今回のパートナー校となる茨城県立下館第一高等学校においてホストファミリーとの対面式が行われた。今回参加した学生23名は全員が、生まれて初めての来日ということもあり、緊張と不安を隠せない様子で、対面式にのぞんだ。土曜日の午後から日曜日のホームステイを終え、月曜日に同校にホストブラザー、シスターたちと登校してきた生徒たちの顔からは緊張と不安は跡形もなく消え、いかにホームステイが楽しかったかという話でもちきりとなった。

学校交流では、日加双方がプレゼンテーションを行った後、三角巾とエプロンに身を包み、昼食づくりを共に行った。メニューは親子丼、手巻き寿司、味噌汁、浅漬け、柿のデザートで、本格的にカツオ節や昆布でダシをとるところから始め、見よう見まねでどうにかどのグループも作り終えることができた。どの生徒からも「オイシイ」と笑みがこぼれ、中には手巻き寿司で用意された「納豆」にチャレンジする生徒も。午後は、習字を1時間じっくり習い、7班に分かれて各授業を15分ずつ見学し、ホームルームや掃除を体験したのち、予め希望していた剣道、弓道、茶道の各部活動に参加した。その後、行われた交流の夕べでは、様々な話で盛り上がりながら、実質のお別れの会となったため、日加双方とも涙を流す生徒が多く見られた。

ボランティアで活動する地元の茨城県西地方ユネスコ協会のメンバーが企画した一日は、UNESCOの無形遺産にも登録されている結城紬の説明を受けたのち、織機を使ってのコースターづくりや藍染めづくりを体験した。午後は筑波山のハイキングとミカン狩りを楽しみ、地域の伝統文化や自然に触れる一日となった。

日本の最先端技術に関しては、つくばにて、日本製ロボットの技術がリハビリなどにいかに活用されているかを知り、実際に装着して体験する機会を得た。また日本企業訪問によって、日本のトイレや水回り、家における技術についても節水への努力について学ぶ機会を得た。

また、合気道の道場にて、気や身体を使った本格的な指導を受け身体を動かす機会を得、日本の世界遺産のひとつである日光東照宮を見学した際には日本の歴史に触れ、日本旅館にも宿泊し、畳の部屋と大型浴場の温泉も体験した。

さらに、千葉県では150年前の街並みに学び、茶道を体験し、寺を訪れおみくじを引くなどして日本文化を体感する機会を得た。

表敬訪問としては、須藤茂市長の表敬訪問、そして、牧野たかお外務大臣政務官表敬訪問の機会を得て、今回の来日で得た感想を述べ、なごやかに歓談する機会を得た。

2 日程

11/22 (金)	16:30	成田空港着、成田市内ホテルにチェックイン
11/23 (土・祝)	午前	茨城県立下館第一高等学校にて全体日程オリエンテーション、ホストファミリーとの対面式
	午後	ホームステイ
11/24 (日)	終日	ホームステイ
11/25 (月)	終日	茨城県立下館第一高等学校にて学校交流
	夕刻	交流のタベ (会場: ホテルニューつたや)
11/26 (火)	午前	筑西市役所表敬訪問、織機によるコースター作りと藍染体験
	午後	筑波山ハイキング、みかん狩り
11/27 (水)	午前	サイバーダイnstスタジオ見学 (つくば市)
	午後	栃木へ移動、心身統一合気道会総本部にて合気道の講義・体験 (芳賀郡)
11/28 (木)	午前	世界遺産を含む日光見学 (日光市)
	午後	世界遺産を含む日光見学 (日光市)
11/29 (金)	午前	外務省表敬訪問、都内観光
	午後	TOTO 東京センターショールーム見学
11/30 (土)	午前	成田へ移動、房総のむらにて茶道体験・街並み見学
	午後	成田山新勝寺見学 (おみくじ体験)
12/1 (日)	午前	日本滞在中の経験についてのディスカッション
	18:10	成田発

3 写真

	
<p>11月24日 ホームステイプログラム</p>	<p>11月25日 茨城県立下館第一高等学校と学校交流</p>
<p>Homestay program (November 24)</p>	<p>Exchange Program at Ibaraki prefectural Shimodate Daiichi high school (November 25)</p>
	
<p>11月26日 筑波山近郊にてみかん狩り</p>	<p>11月27日 合気道の講義・体験</p>
<p>Citrus "mikan" picking near by Mt. Tsukuba (November 26)</p>	<p>Lecture & practice of Aikido (November 27)</p>
	
<p>11月28日 日光東照宮見学</p>	<p>11月29日 TOTO 東京センターショールーム見学</p>
<p>Visit to Toshogu in Nikko (November 28)</p>	<p>Visit to TOTO Tokyo Center Showroom</p>

4 参加者の感想（一部を紹介）

最も印象に残ったことを一つ挙げるということは、ほとんど不可能に近いです。すべての行程が、印象的でした。いくつかの経験は本来私が抱いていた期待を超えるものでしたし、非常に強く心に残りました。

まず、ホームステイプログラムは、驚くべき体験であり、親切な家族、そして彼らと共に過ごす時間が穏やかに経過し、私はとても幸せでした。それから、下館第一高等学校で過ごした時間もまた、素晴らしかったです。なぜなら彼らの毎日の学校生活がどんなものであるかを知るととても興味深いことでしたから。私は、学校でたくさんの新しい人々に会い、ホストファミリー以外の生徒とも生涯続く友情を築くことができました。

[女性 15歳]

外国人にとって、非常に喜ばしい日本の一面は、儀式や宗教を分け隔てることが日本文化にはないということです。日本人は一つの宗教が正しいと頑なに信じているのではありませんし、目に見える差別も全くありません。日本の技術と職業倫理は、全ての国々の羨望の的となるでしょう。来日前は、ロボットの製造会社はただ見せるためにロボットを作っているのだと僕は思っていました。でも、つくばのサイバーダイナミクススタジオを訪れてからは、日本が誰をも助けるために技術革新を行っているのだということがわかりました。日本は、全てのものを細部に至るまで効率よく設計します。トイレのようなありふれたものでさえ節水のために類まれな設計が施され、自動販売機は温かい飲み物と冷たい飲み物の両方を提供するよう設計されています。僕は、これほどまでの技術革新を今まで一度も見ることがありません。

[男性 15歳]

日本の世界遺産を見て、優れた日本の文化や歴史がずっと印象に残っています。僕は、伝統的に信心深い家庭の出身ではありませんが、しかしながら、神道の神社と仏教のお寺への訪問が、僕自身の中にある精神性に気付く手助けとなりました。日本滞在中、僕は非常に、文化と僕がかかわった人々の国民性に感銘を受けました。この訪問をたどり、僕がカナダに帰ったら、僕は日本文化の面を僕自身の生活に結び付けたいと思います。僕が特に興味がある、僕が体験した日本文化の一つの面は、他の世界をしのぐ技術の躍進と共に同時にある一方で、社会の基盤に対しては本来のままでいられるのです。総体的に、このプログラムのおかげで、自分自身や家庭での自分の生活をより良くするために僕は努力するようになりました。僕は、日本文化や国民性をわずかでもカナダの僕の家を持ち帰りたいと思います。この旅は、僕の世界への見方を変えてくれましたし、僕は、このプログラムを可能にし、僕のために実現してくれた全ての人たちに僕の深い感謝の気持ちを言葉では表現することが出来ないのです。

[男性 17歳]